

# 定期作況報告

令和3年8月  
(8月20日現在)



北見農業試験場

# 1. 気象経過

7月下旬：最高気温は平年より極めて高く、最低気温は高く、平均気温は極めて高かった。降水量は平年より少なく（平年比0%）、日照時間は極めて多かった（平年比202%）。

8月上旬：最高気温、最低気温、平均気温とも平年より高かった。降水量は平年より極めて多く（平年比396%）、日照時間はやや少なかった（平年比69%）。

8月中旬：最高気温、最低気温、平均気温とも平年より極めて低く、降水量は平年より少なく（平年比24%）、日照時間はやや多かった（平年比125%）。

以上のことから、この1か月間（7月下旬～8月中旬）は、気温はやや高く、降水量は平年並、日照時間はやや多かった。

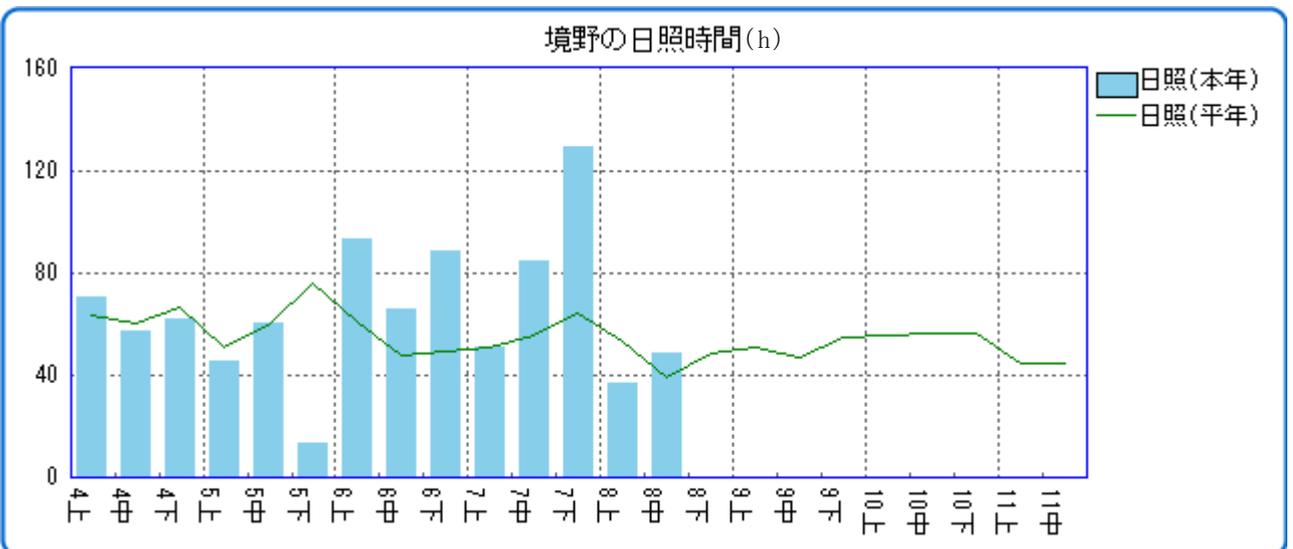
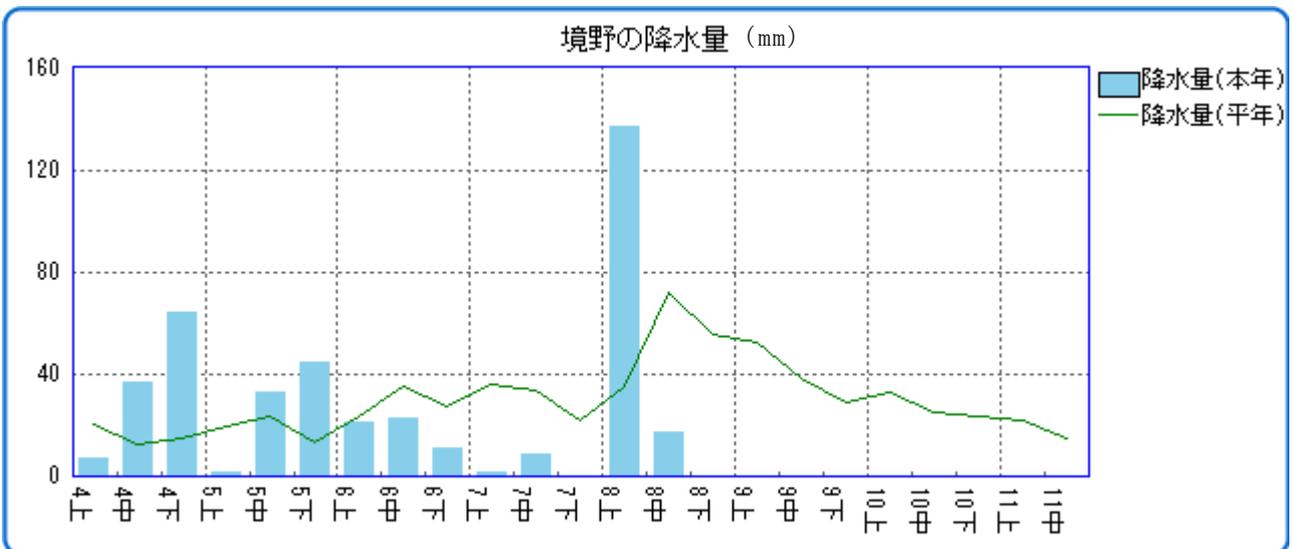
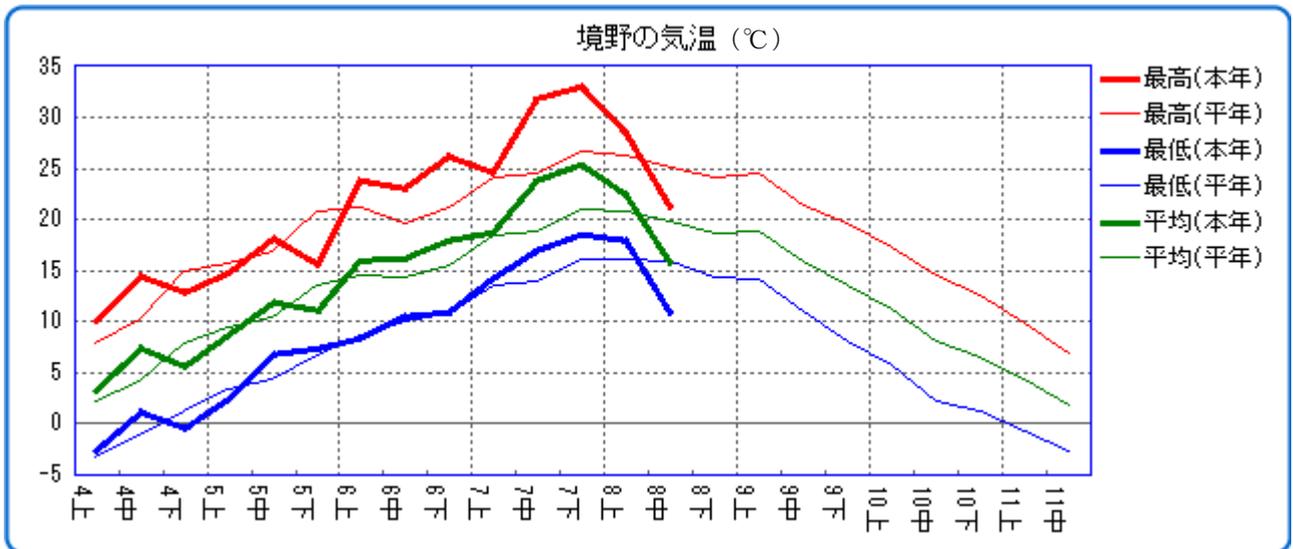
気 象 表

月 旬	平均気温(℃)			最高気温(℃)			最低気温(℃)		
	本年	10年平均	比較	本年	10年平均	比較	本年	10年平均	比較
7月 下旬	25.3	20.9	4.4	32.9	26.6	6.3	18.4	16.1	2.3
8月 月上旬	22.5	20.7	1.8	28.4	26.3	2.1	17.9	16.1	1.8
8月 月中旬	15.8	19.9	-4.1	21.3	25.1	-3.8	10.9	15.8	-4.9

月 旬	降水量(mm)			日照時間(hr)		
	本年	10年平均	比較	本年	10年平均	比較
7月 下旬	0.0	21.8	-21.8	129.2	63.9	65.3
8月 月上旬	137.0	34.6	102.4	36.3	52.6	-16.3
8月 月中旬	17.0	72.0	-55.0	48.8	39.0	9.8

注) 観測値は置戸町境野のアメダスデータである。

10年平均は前10か年間の平均値である。



## 2. 当場の作況

注) 本作況報告は北海道立総合研究機構北見農業試験場の平年値に対する生育良否に基づいたものであり、オホーツク管内全体を代表するものではありません。

### 1) 秋まき小麦 作況：良

事由：成熟期は平年より5日早い7月19日で、登熟期間は平年より7日短かった（前報）。一方、穂数が多く、登熟期間の日照時間が多かったため、子実重は平年比116%であった。リットル重は平年をやや上回り、千粒重は平年をやや下回った。

以上のことから、目下の作況は「良」である。

調査項目	きたほなみ		
	本年	平年	比較
成熟期 (月・日)	7.19	7.24	△5
子実重(kg/10a)	849	731	118
同上平年比 (%)	116	100	16
リットル重 (g)	809	803	6
千粒重 (g)	39.0	40.3	△1.3

注) 平年値は前7か年中、平成27年（最豊）、30年（最凶）を除く5か年の平均。

### 2) 春まき小麦 作況：平年並

事由：7月中旬以降に高温で推移したため、成熟期は平年より6日早かった。出穂期が平年より4～5日遅かったため、登熟期間は平年より短かった。一方、登熟期間の日照が多く、登熟条件が良好であった。

以上のことから、目下の作況は「平年並」である。

調査項目	春よ恋			はるきらり		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較
成熟期 (月・日)	7.31	8.6	△6	8.3	8.9	△6

注) 平年値は前7か年中、平成27年（最豊）、29年（最凶）を除く5か年の平均。

3) とうもろこし (サイレージ用) 作 況 : 不良

事 由 : 7月中旬以降、平均気温は高く推移し、開花期が平年より4日、抽糸期が平年より3日早かった。前月に続き8月8日まで降雨が少なく干ばつ傾向となったことから、草丈は平年に比べ47.5cm低かった。葉数は平年と同程度の14.6枚であった。

以上のことから、目下の作況は「不良」である。

調査項目	チベリウス		
	本年	平年	比較
開花期 (月.日)	7.27	7.31	△4
抽糸期 (月.日)	7.28	7.31	△3
草丈(cm) (8月20日)	243.1	290.6	△47.5
葉数(枚) (8月20日)	14.6	14.8	△0.2

注) 平年値は前7か年中、平成29年(最豊)、30年(最凶)を除く5か年の平均。

4) 大 豆 作 況 : 平年並

事 由 : 平年と比較して開花始は6日早かった。前月に続き8月8日まで降雨が少なく干ばつ傾向となったことから、主茎長は6.2cm短く、主茎節数と分枝数、着莢数は概ね同等である。

以上のことから、目下の作況は「平年並」である。

調査項目	ユキホマレ		
	本年	平年	比較
開花始 (月.日)	7.15	7.21	△6
主茎長(cm) (8月20日)	58.0	64.2	△6.2
主茎節数(枚) (8月20日)	10.7	10.4	0.3
分枝数(本/株) (8月20日)	5.7	5.6	0.1
着莢数(莢/株) (8月20日)	78.1	78.5	△0.4

注1) 平年値は前7か年中、平成26年(最豊)、28年(最凶)を除く5か年の平均。

注2) 着莢数は、莢の長さが2cm以上のものを示す。

## 5) 小豆

作況：平年並

事由：開花始は「エリモショウズ」が平年より2日遅く、「きたろまん」が4日早かった。前月に続き干ばつ傾向となったことから生育が停滞し、その影響は8月8日の降雨まで続いた。平年と比較して主茎節数と着莢数は両品種とも平年を上回ったが、「エリモショウズ」は主茎長が短く分枝数が多く、「きたろまん」は主茎長がやや短く分枝数が同等であった。

以上のことから、目下の作況は「平年並」である。

調査項目	エリモショウズ			きたろまん		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較
開花始 (月.日)	7.26	7.24	2	7.20	7.24	△ 4
主茎長(cm) (8月20日)	61.7	70.4	△ 8.7	64.3	66.5	△ 2.2
主茎節数(枚) (8月20日)	15.6	14.0	1.6	15.0	13.0	2.0
分枝数(本/株) (8月20日)	5.1	4.0	1.1	3.4	3.4	0.0
着莢数(莢/株) (8月20日)	43.6	40.1	3.5	43.9	37.2	6.7

注) 平年値は前7か年中、平成26年(最凶)、令和元年(最豊)を除く5か年の平均。

注2) 着莢数は、莢の長さが3cm以上のものを示す。

## 6) 菜豆

作況：やや不良

事由：草丈、主茎節数、分枝数はいずれも平年を下回り、着莢数は平年より約1割多かった。7月の極端な少雨と高温により生育は停滞し、莢の登熟が急激に進んだ。成熟期は平年より17日早い8月17日となり、小粒化が懸念される。

以上のことから、目下の作況は「やや不良」である。

調査項目	大正金時		
	本年	平年	比較
成熟期 (月.日)	8.17	9.3	△ 17
草丈(cm) (8月20日)	34.9	40.6	△ 5.7
主茎節数(枚) (8月20日)	5.0	5.5	△ 0.5
分枝数(本/株) (8月20日)	4.0	5.3	△ 1.3
着莢数(莢/株) (8月20日)	23.2	20.7	2.5

注1) 平年値は前7か年中、平成26年(最豊)、28年(最凶)を除く5か年の平均。

注2) 着莢数は、莢の長さが4cm以上のものを示す。

## 7) ばれいしょ

作 況：やや良

事 由：前報に続き、茎長は両品種ともに平年を大きく下回った。地上部の伸長は停止し、「男爵薯」は茎葉の黄変・枯ちょうが進んでいる。上いも数は両品種とも平年より多く、また8月上旬にまとまった降雨があったことから、これまで高温・乾燥で抑制されていた塊茎の肥大が急激に進んだ。早生品種の「男爵薯」では上いもの平均重が平年並であったことから、上いも重は平年を大きく上回っているが、晩生品種の「コナユタカ」は上いもの平均重が平年をやや下回り、上いも重は平年並である。

以上のことから、目下の作況は「やや良」である。

調査項目	男爵薯			コナユタカ		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較
茎長 (cm) (8月20日)	44	55	△11	74	97	△23
上いも重 (kg/10a) (8月20日)	5409	4649	760	3906	3835	71
でん粉価 (%) (8月20日)	15.7	15.1	0.6	18.7	19.1	△0.4

注) 平年値は前7か年中、平成24年(最豊)、30年(最凶)を除く5か年の平均。

## 8) てんさい

作 況：平年並

事 由：8月9日までの1か月を越える高温乾燥のため地上部の生育がかなり抑制され、草丈、生葉数、茎葉重は平年を下回った。一方、8月8日以降の降雨により根部は肥大が進み、根重および根周は平年を上回った。

以上のことから、目下の作況は「平年並」である。

調査項目	移植						直播		
	リッカ			アマホマレ			リッカ		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
草丈 (cm) (8月20日)	48.9	59.3	△10.4	46.7	59.0	△12.3	53.5	63.4	△9.9
生葉数 (枚) (8月20日)	19.0	23.2	△4.2	22.9	25.9	△3.0	20.8	21.7	△0.9
茎葉重 (g/個体) (8月20日)	460	749	△289	498	824	△326	544	750	△206
根重 (g/個体) (8月20日)	831	745	86	777	735	42	684	552	132
根周 (cm) (8月20日)	32.9	32.1	0.8	34.2	32.7	1.5	30.0	27.8	2.2

注1) 平年値は前7か年中、26年(最豊)、平成28年(最凶)を除く5か年の平均。

9) 牧草(チモシー)

作況:不良

事由:2番草収穫は平年より3日早い8月4日に行った。前番草収穫後は平年に比べて著しい高温少雨多照が続いたため、収穫時草丈は平年より27cm短く、節間伸長程度も平年より低かった。また、乾物収量は平年比43%と非常に少なく、1番草と2番草の合計乾物収量は平年比82%であった。

以上のことから、目下の作況は「不良」である。

調査項目		なつちから		
		本年	平年	比較
刈取日(月・日)	2番草	8.4	8.7	△3
節間伸長程度	2番草	2.9	4.0	△1.1
病害罹病程度	2番草	1.5	2.1	△0.6
草丈(cm)	2番草	40	67	△27
生草収量(kg/10a)	2番草	251	922	△671
乾物率(%)	2番草	36.3	23.8	12.5
乾物収量(kg/10a)	2番草	91	213	△122
同上平年比(%)	2番草	43	100	△57
乾物収量(kg/10a)	1+2番草	643	782	△139
同上平年比(%)	1+2番草	82	100	△18

注) 平年値は前7か年中、平成28年(最豊)、令和元年(最凶)を除く5か年の平均。

節間伸長程度は、1:無~9:極多。病害罹病程度は、1:無または微~9:甚。病害は主に斑点病。